

地理 B

1

地図や地理情報に関する次の I および II の文章を読み、下記の設問に答えよ。

I 地図はその時代の人々の世界観や技術、用途にあわせてその姿を大きく変えてきた。

古代の（ア）では、世界最古といわれる粘土板に描かれた世界地図が作成された。また、古代のローマでは、天動説を唱えた天文学者・地理学者である（イ）が、緯線と経線の入った世界地図を作った。次に、中世になるとキリスト教の世界観を反映した（ウ）図と呼ばれる絵地図が登場した。そして、近世の大航海時代になると、オランダ人である（エ）の考案した図法が広く航海の便に供された。

一方日本では、奈良時代の僧（オ）が作ったと伝えられる日本図が、ながらく日本図の典型とされ、江戸時代の初めころまでその描き方が踏襲された。江戸時代後期には、（カ）が幕府の命を受けて日本全国の沿岸部を測量し、日本最初の実測図を作成した。

現代では、コンピュータの性能向上およびインターネットの発達に伴い、地図は紙のものから、デジタルのそれへと活用の場が広がられている。わが国では2007年から、デジタルデータをもとにした（キ）が、これまでの2万5千分の1地形図にかわる新たな国の基本図として整備されるようになった。（キ）は、地図情報、空中写真、地名情報などからなり、インターネット上で公開されている。^①

II 地図は、地表や地域についての様々な情報を、記号化するなどして整理し、図面上に表したもので、作成の意図や目的により（A）図と（B）図に大別される。（A）図は地表の事象を満遍なく描いた地図、（B）図は何らかのテーマを取り上げて表現した地図をいう。

また地図は、描かれる情報の種類に応じて表現を工夫する必要がある。図形の面積や体積で量を表した（あ）や、線の太さなどで表した（い）、等しい値の地点を線で結んだ（う）などがある。なかには、地図を変形させて表現した（え）や、地域を等面積の多数の格子でくぎり示した（お）などもある。

問1 文章中の（ア）～（キ）にあてはまる語句を答えよ。なお、同じ記号には、同じ語句が入る。

問2 （A）と（B）にあてはまる語句をそれぞれ漢字二文字で答えよ。なお、同じ記号には、同じ語句が入る。

問3 （あ）～（お）にあてはまる最も適切な語句を、下の1～7からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

1. 階級区分図
2. メッシュマップ
3. 等値線図
4. 流線図
5. ドットマップ
6. カルトグラム
7. 図形表現図

問4 下線部①に関して、国土地理院の発信するウェブ地図を、漢字五文字で答えよ。

2

資源・エネルギーに関する次の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

① 一次エネルギーの中で最も消費量が多い石油は、確認埋蔵量のうち、約半分が西アジアにある。西アジアは、1950～60年代に大規模な油田が（ A ）で相次いで発見・開発されて以来、世界の石油供給の中心となっている。特に、西アジアの（ ア ）は、BRICSの一翼を担う（ イ ）と並ぶ産油国であり、輸出においては両国の規模は突出している。

西アジアの産油国は、石油資源に恵まれてはいたが、当初は開発や精製を行う技術を持たなかった。そのため、限られた利権料を受け取るだけで、利益の大部分は先進国に持ち去られていた。これに対して、自国の資源を経済的自立と発展に結びつけようという動きが高まり、1960年に産油国を中心としてOPECを結成した。その後OPECは、1967年、1973年の2度の（ ウ ）を経て、原油価格や産油量の決定権を獲得した。しかし、1980年代になると、1970年代に2度の原油価格の急騰によって引き起こされた（ エ ）を教訓に、石油備蓄やエネルギー源の多様化がみられた。また、OPEC非加盟国での産油量が増えたことに加え、OPEC加盟国間の利害対立から生産調整は次第に機能不全に陥った。

金属資源には、近代工業を支えてきた（ オ ）、電機関連産業などに利用されている銅、鋳、アルミニウムの原料となる（ カ ）や鉛・亜鉛などがある。金属資源のなかでもニッケルやクロム、コバルト、タングステンなどは、半導体や特殊合金の材料となり、先端技術産業には欠かせない。

問1 （ ア ）～（ カ ）に当てはまる語句や国名をそれぞれ答えよ。

問2 （ A ）に当てはまる名称を以下の1～5から一つ選び、番号で答えよ。

1. 北海 2. ペルシャ湾岸 3. ニジェール湾岸 4. オマーン湾岸 5. 黒海

問3 下線部①に関連して、一次エネルギーに含まれないものを以下の1～5から一つ選び、番号で答えよ。

1. ウラン 2. 水力 3. 木炭 4. 天然ガス 5. 風力

問4 下線部②について、巨大な資金力や政治力、高度な技術力を背景に、石油の探査・採掘から、輸送・精製・販売までを行う国際的な石油会社を何というか、答えよ。

問5 下線部③について、下の設問に答えよ。

1) OPECの日本語名称を漢字で答えよ。

2) 1960年設立当時の5か国に該当しない国を1～8から3つ選び、番号で答えよ。ただし、順番は問わない。

1. イラク 2. ベネズエラ 3. クウェート 4. カタール 5. サウジアラビア
6. イラン 7. アルジェリア 8. アラブ首長国連邦

地

問6 下線部④について、下の説明文と表中の（ B ）（ C ）に入る国名を、以下の1～8からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

（ B ）のコピアポ鉱山では、2010年に落盤崩落事故が発生した。閉じ込められた33人の炭鉱夫は、事故から69日後に無事救出された。また、（ C ）の南東部から、ザンビアの北部にかけて、銅ベルトとよばれる銅鉱床地帯があり、多くの銅鉱山が集中している。

1. メキシコ 2. コロンビア 3. オーストラリア 4. ニュージーランド
5. チリ 6. コンゴ民主共和国 7. アンゴラ 8. カメルーン

表

国名	1990年	2015年		増減率（%） （1990－2015）
	万トン	万トン	%	
（ B ）	159.0	576.4	30.2	262.5
中国	28.5	171.0	9.0	500.0
ペルー	33.9	170.1	8.9	401.8
アメリカ合衆国	158.4	138.0	7.2	-12.9
（ C ）	…	102.0	5.3	…
世界計	895.0	1,910.0	100.0	113.4

（出典）『データブック オブ・ザ・ワールド2020』を基に作成した。

問7 下線部⑤について、下の設問に答えよ。

- 1) これらは地球上にもともと埋蔵量が少ない金属や、量はあっても技術面や費用面から純粋なものを取り出すことが難しい金属である。これらの金属は何と呼ばれているか、答えよ。
- 2) これらの金属の説明として誤っているものを以下の1～4から一つ選び、番号で答えよ。
 1. 携帯電話やハイブリッド車、薄型テレビの生産増加によって需要が高まっている。
 2. これらの金属の分布はアフリカ北部や東南アジア、ロシアなどに限られている。
 3. 廃棄された工業製品から抽出するリサイクル技術が確立されつつある。
 4. 日本では、重要な7種類を国と民間で備蓄し、価格と供給の安定化を図っている。

3

海と海洋資源に関する次の文章を読み、下記の設問に答えよ。

海は、重要な資源を供給する。1994年に発効した国連海洋法条約では、世界各国は基線から（ア）海里までを領海とし、（イ）海里までを排他的経済水域として宣言することが可能であることが合意された。

世界の主な漁場は、海岸から緩やかに傾斜しながら続く（ウ）のような水深の浅い海域や、寒流と暖流のぶつかる（エ）に多い。日本が主要な漁場としている太平洋北西部は、魚種が豊富な世界最大の漁場である。太平洋の中西部では東南アジア諸国の経済発展に伴って漁獲量が増加しており、太平洋の南東部では（オ）現象によって漁獲量が激減する年がある。

世界の漁業資源は海洋汚染や乱獲によって減少傾向にあり、各国では海洋の水産資源を保護・管理する動きが強まった。一方、卵から生魚まで育てる（カ）や、人工ふ化ののちに放流を行う（キ）がさかんになっている。

国境付近の島では島の帰属によって排他的経済水域が変わるため、無人島であっても領有価値は高く、島の帰属をめぐる領土問題が各地で起きている。

海はまた、交通路としても重要であり、航空交通が発達した現在でも、重い貨物や容積の大きい荷物を運ぶ上で重要な役割を果たしている。

問1 文章中の（ア）～（キ）にあてはまる語句や数字をそれぞれ答えよ。

問2 下線部①の略称を、アルファベット三文字で答えよ。

問3 下線部②について、日本列島の東側を南下する寒流の名称を答えよ。

問4 下線部③と下線部④について、太平洋中西部と太平洋南東部の主要な漁獲物を下の1～5からそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。

1. さけ・ます
2. かたくちいわし
3. かつお・まぐろ
4. たこ・いか
5. たら・にしん

問5 下線部⑤について、2010年に海底油田の事故で大量に原油が流出し、海洋環境が汚染された湾を下の1～5から一つ選び、番号で答えよ。

1. メキシコ湾
2. ベンガル湾
3. ハドソン湾
4. ペルシア湾
5. ギニア湾

問6 下線部⑥について、水産資源や海底の鉱物資源をめぐる中国、ベトナム、台湾、フィリピン、マレーシア、ブルネイが領有を主張して争いが続いている諸島（群島）の名称を漢字二文字で答えよ。

問7 下線部⑦について、次の文章に当てはまる運河と海峡の名称をそれぞれ答えよ。

- A. 1914年に開通した世界有数のこうちん閘門式運河。
- B. ペルシア湾とオマーン湾のあいだに位置し、タンカーの交通路として重要な海峡。

東南アジアに関する次の文章を読み、下記の設問に答えよ。

東南アジアは、モンスーンによる高温と多雨のため、世界でも有数の稲作地帯である。米の生産は、インドシナ半島の西から順に（ a ）の（ あ ）川、（ b ）の（ い ）川、（ c ）の（ う ）川のいずれも中流から下流の三角州（デルタ地帯）にかけた低地で特に盛んである。また、（ d ）のジャワ島・バリ島、（ e ）のルソン島などでは傾斜地を階段状にした（ え ）もつくられている。米の多くは自国での消費に向けられるが、（ b ）や（ c ）では輸出も盛んで、世界有数の米の輸出国になっており、日本も貿易政策の一つとして今も（ b ）から米を輸入している。こうした米の収穫量の増大は、1960年代半ばから、品種の改良、灌漑・排水施設の整備、農業機械の導入、化学肥料や農薬の投入など、伝統的な農業からの農業経営の変革の結果であり、（ お ）の革命と呼ばれている。

また、東南アジアの各地には、19世紀以降、欧米諸国による植民地支配の下で天然（ か ）など商業的な目的で単一の作物を育てるプランテーションが数多く開かれてきた。第二次世界大戦後、（ f ）では、農業経営は地元系の企業に移行し、1970年代以降は（ き ）油の生産が拡大し、先進国の食品の原料としても輸出されている。

工業については、植民地時代は、原油や（ く ）の豊富な鉱産資源が宗主国の富を増やすことを目的に利用された。そのため、モノカルチャー経済となり、自国の工業発展にはつながらなかった。しかし、1970年代あたりから、資本と技術を持った外国企業を積極的に誘致する政策に着手し、輸出志向型の工業が導入された。いち早く工業化に成功したのは、1970年代にアジア NICs の一つとして注目された（ g ）であり、次いで（ f ）は電気電子部品の生産の集積地となり、また日本をはじめとする自動車産業の進出が進んだ（ b ）がある。現在では、これらの国の中には、輸出品目の上位に工業製品が入るまで競争力をつけている国が台頭してきている。

こうした東南アジアの工業では、域内での国際分業を形成し、相互に部品供給をし合うなどして生産の効率化を図っている業界もみられ、その要因の一つには ASEAN（け）により取引が拡大し、各国の経済協力が発展したことが挙げられる。

また、この地域の観光も経済発展に伴って急速に成長し、（ b ）は日本を凌ぐ観光入込客数を記録しており、アンコールワットを有する（ h ）もその地域資源を生かして観光産業の育成を追求している。さらに、東南アジアのいくつかの都市は大きく発展し、市街地を高層ビルが林立し、自動車が急増しているが、深刻な交通渋滞の結果、高速道路や地下鉄高架鉄道などの都市交通を整備し近代化を進めている。一方、農村地域は就業機会が少なく、都市に流入して貧困層となった住民が市街地に（ こ ）を形成し、社会問題化している。

問1 文章中の（あ）～（う）の河川の組み合わせについて、下記の1～6からあてはまるものを一つ選び、番号で答えよ。

- | | | |
|--------------|-----------|----------|
| 1. あーエーヤワディー | いーチャオプラヤ | うーメコン |
| 2. あーエーヤワディー | いーメコン | うーチャオプラヤ |
| 3. あーインダス | いーチャオプラヤ | うーメコン |
| 4. あーインダス | いーエーヤワディー | うーメコン |
| 5. あーチャオプラヤ | いーメコン | うーインダス |
| 6. あーチャオプラヤ | いーインダス | うーメコン |

問2 文章中の（え）～（お）にあてはまる語句を、下記の1～7からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

1. 乾田 2. 焼畑 3. 棚田 4. 耕作 5. 緑 6. オレンジ 7. 農地

問3 文章中の（か）～（く）にあてはまる生産物を、下記の1～9からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えよ。

1. ゴム 2. 油 3. ココア 4. なたね 5. パーム
6. すず 7. 銀 8. ニッケル 9. 金

問4 文章中の（け）にあてはまる語句を、下記の1～5から一つ選び、番号で答えよ。

1. 関税特区 2. TPP 3. GATT 4. 自由貿易地域 5. 工業整備特別地域

問5 文章中の（こ）にあてはまる語句を、下記の1～4から一つ選び、番号で答えよ。

1. インナーシティ 2. スラム 3. ジェントリフィケーション 4. スプロール

問6 文章中の (a) ~ (h) の国にあてはまるものを下記の1~10から一つ選んで番号で答え、その国の首都名を答えよ。

1. 赤道に沿った13,000以上の島々からなる多民族国家であり、国民の約90%がイスラム教徒である。世界で一番イスラム教徒の多い国であるが、信仰は自由で、「多様性の中の統一」が特徴である。好調な内需に支えられて経済発展が目覚ましく、現在は積極的に投資誘致を進めている。
2. イスラム教を中心に多様な文化が共存する多民族国家で、世界最古ともいわれる熱帯雨林の一部は、生態系の貴重性から世界自然遺産に登録されている。外資の積極的な導入による工業化や技術移転を推進し、急速な経済発展を遂げ、2020年までに先進国入りを果たす開発政策を推進中である。
3. 11の大きな島を中心に、7,000以上の島々からなる群島国家であり、別名「東海の真珠」と呼ばれ、島それぞれに独自の文化や歴史、伝統的な暮らしが息づいている。ASEAN 諸国で唯一のキリスト教国で、国民の約80%がカトリック教の信者であり、観光立国を追求している。
4. インドシナ半島の中央に位置し、恵まれた豊かな自然をもち、「森林の国」ともいわれ、北部国境地帯の大部分が森林におおわれている。国民の約98%が仏教徒で、過去には長い戦乱・内戦に苦しんだが、恵まれた農業と世界遺産を象徴とする観光をおもな産業としている。
5. 5つの国と国境を接し、ASEAN唯一の内陸国であり、約50の民族が暮らし、国民の約70%が熱心な仏教徒である。水資源に恵まれ豊かな自然を擁し、1986年に導入された「新経済メカニズム」と呼ばれる経済改革により、市場経済の導入と開放経済政策を進めている。
6. この国は、1976年に南北統一が実現した約55の少数民族を擁する多民族国家である。1986年に市場経済システムを採用し、西側の資本と技術を積極的に導入することにより、目覚ましい経済発展を遂げている。また多彩な観光資源を有し、観光立国としての顔ももち合わせている。
7. この国は130以上の少数民族が住む多民族国家で、インド・中国とも国境を接し、肥沃な国土をもつ国である。就労人口の半分以上が農業にたずさわる農業国であるが、約5,000万人以上の人口と豊富な天然資源を擁することから、経済発展の潜在性が高いといわれている。
8. 海峡に面した国家で、緑豊かな町並みからガーデン・シティとも呼ばれている。多様な文化、言語、宗教が調和し、独自の文化を形成し、高付加価値の製造業、金融、情報通信、バイオテクノロジーの育成に力を注ぎ、最先端のビジネスで世界経済を牽引している。
9. ASEAN の中で唯一植民地にならなかったこの国は、独自の文化を育み、国民のほとんどが仏教徒で、民族、国王とともに国家を統合する三大柱のひとつとして重要な役割を果たしている。1980年代以降、外国企業の受け入れを積極的に行って経済発展に成功し、また多様な観光資源を生かした屈指の観光地を擁している。
10. ボルネオ島の北西海岸に位置し、国民の約80%が敬虔なイスラム教徒である。イギリスから独立して以来、国王による統治で安定した内政を維持し、石油や天然ガスなどの豊かな地下資源に恵まれ、医療費や教育費はすべて無料で、高い生活水準を維持しているが、エネルギー産業の依存から多角化も進めている。